



今こそ、「安全」で「安心できる」輸送サービスを提供するために
職場から声を出し続けよう！



日航機墜落事故から41年

1985年8月12日、航空機事故最悪と言われる日航機墜落事故から41年が経ちました。日本航空では事故を直接知る社員が減少し、来年には在籍しなくなるともいわれています。また、遺族や関係者の高齢化が進んでいることから、事故を風化させないための継承が課題となっています。そうした中で、遺族の美谷島邦子さんは、「高齢になり登山を諦める遺族も増えてきたが、『子や孫の世代など一緒に登る家族がいる限り、事故の記憶が次の世代に引き継がれていくはずだ』と述べています。

公共交通機関に従事する私たちは、お客さまの大切な命、人生そのものを預かる非常に重要な使命を果たさなければなりません。JR東日本グループでは7月から「JR東日本のさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方」により36事業本部化されました。6月には、『信頼』は、JR東日本グループの最大の財産であり成長の礎として、コンプライアンスの確保を通じた健全な企業グループをめざすため、「JR東日本グループの『決意と約束』として「家族や友人に誇れる仕事をする」「法令やルールを守る」「お互いに敬意をもち、安心して本音を話せる職場をつくる」と制定しました。

しかし、「区分を意識した社員同士の競争意識の醸成」や「未だに行われている“悪意に満ちた労働組合敵視”の現場管理」が行われています。このような現状に「JR東日本に見切りを付けて退職・転職」する若い社員が続出しており、優秀な人材が流出している状況です。その結果、事故・事象が多く発生しており、後を絶ちません。

「安全最優先の職場風土」「事故・事象を隠さず、何でも気軽に話せる風土」を
私たち1人ひとりが職場からつくり出していこう！